

## 読書状況と所在情報に着目した読書管理システム BOOK COLLEC

小島 聡恵

近年、Web 上で読書管理をする人が増加している。読書管理は読書の進捗である「読書状況」と、本がどこにあるかという「所在情報」を把握することで可能となる。しかし既存の読書管理システムである「ウェブ本棚」では予め用意されている少数の読書状況しか管理できない。さらに、全ての本が 1 つの本棚に表示されてしまうため読書状況や所在情報を直観的に把握しづらく、重複購入などのトラブルが引き起こされる。

そこで本研究では、読書状況や所在情報に対するユーザの多様な要求に対応でき、それらの違いを直観的に把握しやすくすることを目的とした読書管理システム BOOK COLLEC を開発した。

本システムでは、ユーザは読書管理のための情報を必要なだけ自由に登録することができる。その情報はタグとして本棚に付与して表示されるため、多くの本の読書状況や所在情報を一目で把握できる。また、本棚の種類や本の表示方法が選べることも、直観的な把握を支援する。さらに、ドラッグ&ドロップで本の読書状況を変更できるなど、操作も直観的に行えるようにした。

本システムの有効性を検証するため日常的に読書をする 20 人を対象に機能に関する評価実験とインタフェースに関する評価実験を行った。機能に関する評価実験では、本システムを 7 日間利用してもらいユーザが求める読書管理ができたか、本システムが読書管理に関わるトラブルを改善できるかを検証した。インタフェースに関する実験では、既存のウェブ本棚であるブックログと本システムを利用して読書管理を行ってもらい、操作時間、ステップ数、アンケートによる満足度を比較した。

機能に関する実験の結果、全員から本システムにより読書状況の管理が出来たという回答が得られた。さらに、本システムにより「人に本を貸したことを忘れてしまう」というトラブルを改善できるという意識が向上した。それに対して、人によってはトラブルに関して、既存システムに比べて本システムの方が悪化するという回答もあった。一方、インタフェースに関する実験の結果、ブックログに比べて本システムの方が迷わず直観的な操作が可能で、読書状況の把握が早くなることが分かった。

以上の結果から、本システムを利用することで、ユーザの多様な要望に応じた読書管理が可能になり、読書状況の把握が早くなったと言える。今後の課題は、読書状況や所在情報の違いを更に把握しやすくするためにインタフェースと機能を改善すること、トラブルを改善できるような機能を検討することである。

(指導教員 松村敦)